

ネズミモチかな トウネズミモチかな

赤い実の少なくなったこの頃、小鳥たちはネズミモチなどの黒い実にも群がっています。その騒がしさや黒い糞に閉口している方もおられるようです。

ネズミモチは、関東以西の暖地の山に生える 5 m ほどの常緑小高木です。モクセイ科で、1 cm ほどの黒い楕円形の果実は、ネズミの糞そっくりです。また、葉がモチノキに似ることからネズミモチの名がつけました。この名は古く「枕の草子」にも記されていますが、他にも実の形からネズミギ・ネズミノフン・・・、葉の形や色からタマツバキ・テラツバキ・・・、葉を揉むと甘い香がすることからサトウギ・・・などなど、思いの外多くの名で呼ばれていました。

常緑であり大きな木にならず、刈込みに強いため、古くから庭や垣根に植えられてきました。鹿児島や福岡地方では、この木のことをデコッサーノキ・デッグサンシバ・オコージンシバなどと呼んで、大黒様や荒神様の供花とするそうです。実がネズミの糞によく似ていればこそマイナス・イメージでなく、大黒様のお使いのネズミに招福の願いを込めて、庭や垣根に植えたものと思われます。

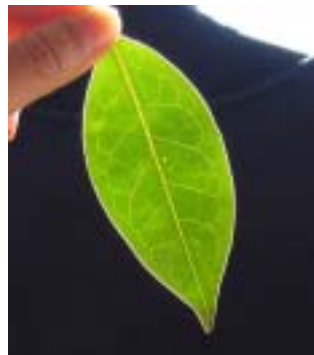


左：ネズミモチ、右：トウネズミモチ。トウネズミモチは、葉が大きく先が鋭くとがり、葉の基部の方が広く、果実が丸い。右の実が少ないのは野鳥に食べられたため。

現在もこうした所によく植えられていますが、都会ではネズミモチによく似たトウネズミモチ方が多いようです。この2種はとてもよく似ており、時に混同されていることがあります。

トウネズミモチは中国原産で、明治初期に渡来したとのこと。成長が速く、塩害や大気汚染にも強く、葉も美しいので公園や工場に植えられました。

トウネズミモチは、ネズミモチに比べて全体に大柄で高さ1.5mほどになります。葉も一回り大きく、先が細く尖り、葉の基部の方が一番広がっています。花序も倍近く大きく、多くの花が着きます。また、果実も丸みを帯び、種子の表面に大きな皺があるなど、相違点は多々ありますが、一番はっきりした違いは、葉を陽にかざして見ると葉脈が明るく透けて見えることです。



葉脈が透けるトウネズミモチ

中国ではトウネズミモチを女貞と呼び実を強壮薬に、葉を腫物の薬に、枝についたイボタロウムシの蛹は家具を磨くワックスなどに使ったようです。これらを探るために栽培もしていたとのこと。姿・形のとてもよく似た日本のネズミモチにも、こうした利用の仕方はあったのでしょうか。



透けないネズミモチ

こんなことを考えながら、冬の陽に葉をかざしながらネズミモチを探すのも楽しいですね。(篠原 智 男)
